

自分の思いを議場で発信

ゆざわ市民一日議会

10.27 2024
sunday 13:30-16:00



開催報告書



湯沢市議会

目次

1. 開催概要	1
1)開催の目的	1
2)事業の概要	1
3)開催日程等	1
4)議会運営	1
2. 参加者名簿	2
1)発言者とテーマ一覧	2
2)参加者の構成(性別・地域・年代区分)	2
3. 議席図	3
1)ゆざわ市民一日議会議席図	3
2)注意事項一覧	3
4. ゆざわ市民一日議会	4
1)スケジュール	4
2)オープニング	5
3)議長プレゼンテーション	5
4)会議記録	6
5)スナップショット	30
5. アンケートの集計結果	32
1)アンケート(参加者・傍聴者)	32
6. ゆざわ市民一日議会を終えて	33
1)湯沢市議会第4回(12月)定例会一般質問	33

1. 開催概要

1)開催の目的

市民の市政参画を推進し、市議会活動について一層関心を深めていただくことを目的に、市民の皆様から市政や議会へのご意見やご提案をお聴きする新しい取組として、「ゆざわ市民一日議会」を開催しました。

2)事業の概要

議場において、市民の皆さんが暮らしの中で思われていることなどを発表していただく場を設けました。発言者の皆様からいただいたご意見やご提案については、議会改革推進会議などで協議し、市政および議会活動に反映させてまいります。

3)開催日程等

日 時 令和6年10月27日(日) 13 時 30 分から 16 時まで

会 場 湯沢市議会 議場

名 称 ～自分の思いを議場で発信～ ゆざわ市民一日議会

4)議会運営

- ①議事の進行は議長が行いました。
- ②発言の内容は市政や湯沢市議会に関することとし、1つのテーマに限定しました。
- ③発言時間を1人7分程度としました。
- ④議会映像は YouTube(ユーチューブ)で配信しました。



※ 上記、QR コードから、一日議会当日の映像が確認できます。

2. 発言者名簿

1) 発言者とテーマ一覧

発言順番号	発言者氏名	発言のテーマ
1	柴 田 結 香	市をあげて災害への対策を
2	藤 原 由紀人	湯沢の風土を生かした取り組み
3	佐 藤 舞 夢	湯沢市を有機農業で盛り上げたい
4	古 関 マリ子	通いやすい緑風荘に！
5	遠 田 喜代志	「湯沢出身者よ。たまには田舎に住んでみないか」プロジェクト
6	井 上 花	地元の魅力を多方面に広めたい！
7	小 塚 悠 平	地域通貨、ポイントで町の経済を活性化
8	長谷山 汐 莉	湯沢市で子供達がのびのびと遊べる場について
9	吉 野 弘 子	湯沢市がもっと盛り上がるためにジオパークとして出来る事
10	佐 藤 孝 昭	若者が輝けるまち

2) 発言者の構成(性別・地域・年代区分)

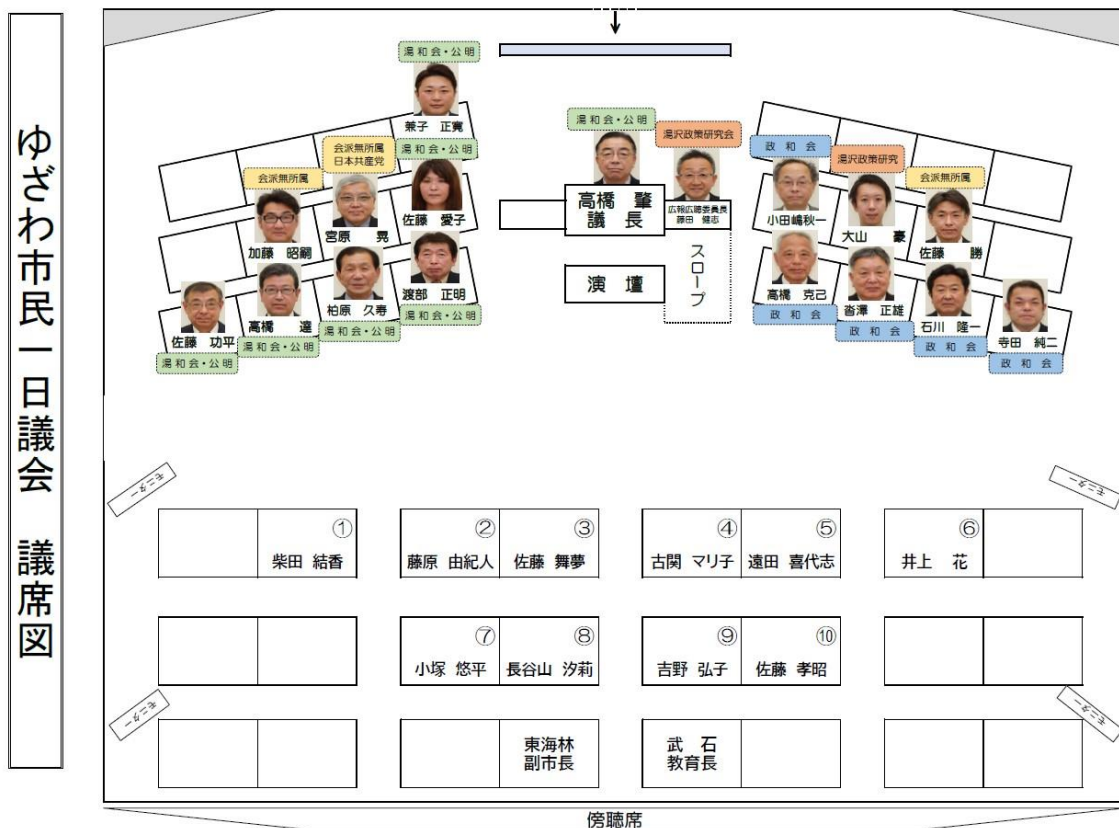
男性	女性	合計	湯沢地域	稲川地域	雄勝地域	市 外
4名	6名	10名	7名	1名	1名	1名

小学生	中学生	高校生	30 代	60 代	70 代	80 代
0名	3名	2名	2名	1名	1名	1名



3. 議席図

1) ゆざわ市民一日議会議席図



2) 注意事項一覧

ゆざわ市民一日議会 注意事項一覧

○ 議場での注意事項

・ 発言者は次の行動をとらないでください。

- ① 個人のプライバシーに関することや批判的・中傷的な発言
- ② 大声で叫ぶ、脅迫的、または罵倒するような発言
- ③ 議会の秩序ある運営を乱すようなその他の言動
- ④ 決められた発言時間の超過
- ⑤ その他議長が不適切と判断する発言

・ 傍聴者は次の行動をとらないでください。

- ① 大きな声や音を発する等、騒ぎ立てないこと。
- ② はち巻き、腕章の類をする等示威的行為をしないこと。
- ③ 飲食をしないこと。
- ④ 携帯電話等音声を発生する機器は、電源を切り、又は音を発しないようにすること。
- ⑤ 議場の秩序を乱し、又は妨害となるような行為をしないこと。

○ 写真や動画の撮影は可能です。ただし、個人の記録用として撮影し、SNSなどのインターネット上での公開はしないでください。

ゆざわ市民一日議会はYouTubeで配信しています。また、撮影を許可している場合があります。傍聴席も映り込むことがありますので、ご了承ください。



議会中継
QRコード

4. ゆざわ市民一日議会

1) スケジュール

12:45	～	13:15	30	事前説明&リハーサル
13:15	～	13:25	10	休憩
13:25	～	13:30	5	5分前入場（議場へ）
13:30	～	13:40	10	オープニング（開会・議長プレゼン）
13:40	～	13:47	7	発言者①柴田 結香さん
13:47	～	13:50	3	発言者①柴田 結香さんへの感想・簡単な質疑
13:50	～	13:57	7	発言者②藤原 由紀人さん
13:57	～	14:00	3	発言者②藤原 由紀人さんへの感想・簡単な質疑
14:00	～	14:07	7	発言者③佐藤 舞夢さん
14:07	～	14:10	3	発言者③佐藤 舞夢さんへの感想・簡単な質疑
14:10	～	14:17	7	発言者④古関 マリ子さん
14:17	～	14:20	3	発言者④古関 マリ子さんへの感想・簡単な質疑
14:20	～	14:27	7	発言者⑤遠田 喜代志さん
14:27	～	14:30	3	発言者⑤遠田 喜代志さんへの感想・簡単な質疑
14:30	～	14:40	10	休憩
14:40	～	14:47	7	発言者⑥井上 花さん
14:47	～	14:50	3	発言者⑥井上 花さんへの感想・簡単な質疑
14:50	～	14:57	7	発言者⑦小塚 悠平さん
14:57	～	15:00	3	発言者⑦小塚 悠平さんへの感想・簡単な質疑
15:00	～	15:07	7	発言者⑧長谷山 汐莉さん
15:07	～	15:10	3	発言者⑧長谷山 汐莉さんへの感想・簡単な質疑
15:10	～	15:17	7	発言者⑨吉野 弘子さん
15:17	～	15:20	3	発言者⑨吉野 弘子さんへの感想・簡単な質疑
15:20	～	15:27	7	発言者⑩佐藤 孝昭さん
15:27	～	15:30	3	発言者⑩佐藤 孝昭さんへの感想・簡単な質疑
15:30	～	15:35	5	クロージング（閉会・議長あいさつ）
15:35	～	15:45	10	市長、教育長コメント
15:45	～	16:00	15	記念写真撮影、タイトルコールほか

2) オープニング

藤田健志広報広聴委員長が司会を務め、ゆざわ市民一日議会のスケジュールや注意事項などについて説明しました。

3) 議長プレゼンテーション

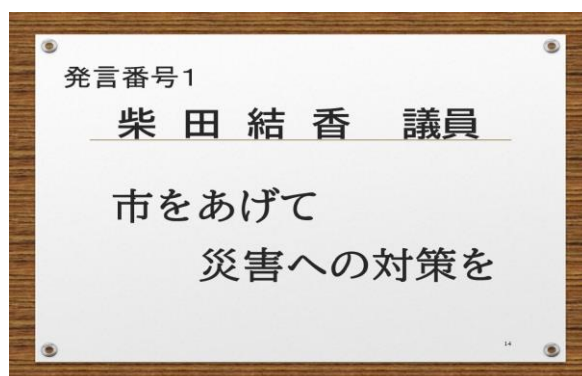
ゆざわ市民一日議会の開会に先立ち、高橋肇議長によるプレゼンが行われました。渡部前議長の「動く」というテーマから、「聴く力」にも磨きをかけていくという目標のもと、2021年から取り組んできた議会改革について、「市民に身近で信頼される議会」というコンセプトのもと、市民と議会との多様な意見交換の場の設定や政策立案機関としての機能強化を図るための研修の実施など、様々な活動について紹介しました。

今後も意見交換の場での市民の皆様の意見を参考とし、議員一丸となり、議会機能を強化し、市民との意見交換を積極的に行い、市民の声を政策に反映していくことを御説明しました。

こういった取組が全国の議会改革度調査で県内 1 位、全国43位に評価されていますので、引続き市民の協力を得ながら湯沢市を元気にするため、改革を続けていきます。



4)会議記録



発言の映像は
こちら ↓



柴田結香さん 皆さんこんにちは。今年は元日の能登半島の地震に始まり、台風や豪雨など、大きな被害をもたらす自然災害が多く発生しているように感じます。最近では、9月の奥能登豪雨の災害で、私と同じ中学3年生を含む15名もの方々の命が奪われました。とても悲しい出来事です。8月には宮崎県で発生した。震度6弱の地震により、南海トラフ地震臨時情報が発表され、私はこのニュースを見て、もうすぐ日本に大きな地震が来るのかと、ドキドキしました。この南海トラフ地震は、今後30年以内に起こる確率が70%から80%と言われています。近いうちに確実に災害がやってくるのです。災害の被害が少ない湯沢に住む私たちは、こうした災害をどこか他人事のように思っているのではないのでしょうか。私は今こそ、災害が起こったときに何が必要で、どう行動すればよいのか。家族や地域の人たちをどうやって守るかについて、市民一人一人が自分事として考え、防災意識を高め、災害に備えることが大切だと思います。そこで、私は市民の防災意識を高めるためのアイデアを幾つか考えてみました。まず一つ目の提案は、市内には現在、多くの自主防災組織がありますが、そうした組織に属していなくても、自主的な防災活動を行う小グループに市が活動支援をするというものです。例えば、近所の仲良し家族のグループや、部活動の集まりでもよいと思います。防災に関する意識づけや、非常時の行動などについて学習したり、イベントを企画して行ったりするときの施設利用料の免除や補助防災グッズの購入費の支援などをすることで、より防災対策に取り組やすくなるのではないかと思います。そうした小さなグループが地域の自主防災組織とつながっていけば、もっと



幅広い年齢の人たちにも広がっていくのではないのでしょうか。二つ目の提案は、市民全員が参加する、湯沢市防災の日を決め、防災キャンプなどのイベントを開催してはどうでしょうか。市を挙げて防災について考える日をつくるのです。先日、秋田市で防災キャンプフェスが開催されると新聞に載っていたので、買物のついでに家族と会場に行ってみたのですが、悪天候のため中止となって

しまい、残念ながら参加することができませんでした。イベントは非常時に少しでも快適に生活する方法を楽しみながら学べる内容で、防災に役立つ知識や情報を得られる無料のワークショップなど、子供から大人まで楽しめるイベントだと思いました。このような市

民が行ってみたいと思うような内容を盛り込んだり、例えばスポーツのチャレンジデーのように、地域を挙げて参加率を競うような要素を取り入れて、市民全員が楽しく防災に取り組めるようなきっかけをつくり、防災について、真剣に考える日にするというのはどうでしょうか。市が積極的に地域の市民を巻き込んでいく仕掛けをつくっていくことで、市全体の防災への意識を高めることができるのではないかと思います。最後の提案は、市が行う防災イベントのサポートや企画に私たち中学生も一緒に参加するということです。例えば、地域の人との避難訓練や、応急処置のデモンストレーションを行ったり、防災啓発ポスターやチラシと一緒に作成して地域に掲示するなどの活動ができると思います。また、SNSを活用して防災に関する取組や情報を広報することで、同じ世代の防災意識を高めることができるのではないのでしょうか。自分たちが楽しめる要素訓練に取り入れることで、家族や地域の方にも楽しく参加してもらえんと思います。災害が来たときでも、市民一人一人が適切な行動をして、家族や地域の皆さんと助け合いながら、誰の命も犠牲にしない湯沢市になればよいと思います。これで私の発表を終わります。御清聴頂きありがとうございました。

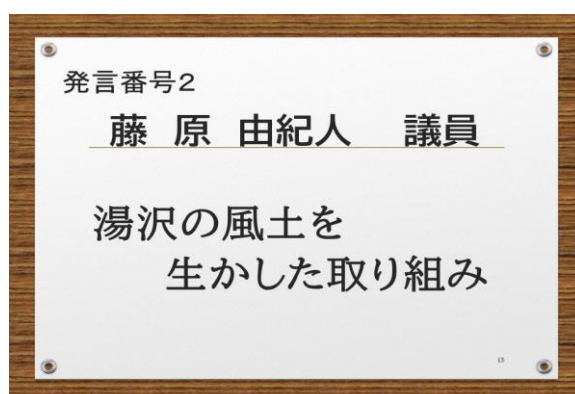
大山 豪議員 トップバッター、お疲れさまでした。はい、余り緊張されてる御様子なくすらすらっとはい。述べられていて感心しました。いろいろ御提案頂いたと思っています。いろいろ論点がありますけれども、主に訓練についての御提案が多くお寄せ頂けたのかなと。ちょっとお伺いしてみたいなと思いますのは、訓練をするのも結構なことだと思います。訓練をしてみなければ分からないこともあるかと思っています。ただ、災害が起きると、訓練どおりにいかないようなこともあると思うんですが、この点はいかがでしょう。



柴田結香さん はい。私も学校で避難訓練などやっているんですけど、やっぱり避難訓練とかだと危機感とかがなくて、真剣に行動するっていうのが難しいとかではあると思うんですけど、やっぱりこう訓練をしないとではやっぱり、どうしたらいいかっていうのは、しっかり訓練をしたほうがしないよりもいい行動ができると思うので、やっぱり訓練をするっていうのは、そういう場面の中で、ちょっとすごい重要になってくるかなと思います。

大山 豪議員 真剣になれない、恐らく避難訓練も私経験ありますけれども、中学校高校だとですね。非日常なものですから、笑ってしまう人がいるとか、そういうことだと思いますけれども、ただ体でですね、どう動くのかっていうことを実際体験するには非常によい機会と考えます。あともう一つちょっと、感想としてちょっと、あるのはですね、災害が起きるとですね、どうしても誰かを助けてあげたいとか、支援したいと考えるのが人情といいますが、そういうことはままありますけれども、自分の身が例えばけがをしていないとか、物資に不足がないですとか、余裕のあるときにできる考え方だと思うんですね。ですので、災害が起きるときはですね、まずは自分の身を守ることっていうのも、一つ重要な視点かなと思います。自分の身が守れていなければ、誰かの支えになることもなかなか

か難しいかと思しますので、そういったことも、行動をどういった行動かなと情報を集めるといろいろありますけれども、考えておく必要があるのかなと思いました。以上です。



発言の映像は
こちら ↓



藤原由紀人さん それでは、よろしくお願いします。早速ですか皆さん湯沢にはどのような魅力があると思いますか。稲庭うどんや皆瀬牛などの食べ物ですか。七夕まつりや犬っこ祭りなどの伝統的なお祭りですか。それともほかの何かですか。私は小学校や中学校のときに、湯沢についてフィールドワークや、調べ学習でたくさんの湯沢の魅力を発見して学んできました。その中で私が発見した1番すばらしい魅力は湯沢の自然を生かした風景です。湯沢にはたくさんの自然によってつくられた地形やものがあり、この自然はほかの地域や町にはない湯沢市にあるからこそ、すばらしい魅力だと感じられると思います。しかし、私はこの自然はもっと湯沢の象徴として大きなものであってほしいし、有名であってほしいです。また、湯沢が持っている自然の本来の魅力で、現状である少子高齢化や衰退していく湯沢を救っていくことができるなら、とてもすばらしいことだと思います。そこで、私はこの湯沢の美しい自然を最大限に生かせるような案を二つ紹介します。一つ目は、田んぼアートです。私は以前ネットで田んぼアートという芸術を見ました。そのとき私は、とても感動しました。田んぼでこのようなことができることへの驚きと田んぼであらわされた緻密な絵の芸術がとても格好いいと思いました。また、田んぼアートのことについて引き続き調べていったら、田んぼアートで町おこしをしたという市もありました。その市は湯沢市と少し似たように、少子高齢化が進み、このままでは衰退していくという町だったそうです。しかし、その田んぼアートのおかげでこの市は、少子高齢化や衰退していく事態を食い止めることができ、にぎわいを取り戻すことができました。つまり、田んぼアートは実際に成功している例があるので、とても期待ができる案だと思います。さらに、田んぼアートは大勢の人がいなくては完成することが難しい、非常に大きく、戦災の後です。だからこそ、湯沢市全体が一致団結をして、田んぼアートに、取り組めるようにするため、田んぼアートを製作するまでに、地域の小学校や中学校の若い世代の人たちを集めて、地域の人と協力して田んぼアートをつくり上げる。こうすると、若い世代の中で交流するのはもちろんのこと、地域の人と若い世代の人たちとの間の交流も深まり、湯沢市全体が活発



になることで、湯沢市にも田んぼアートでまちおこしをしたあの市のように、にぎわいが戻ってくるのではないのでしょうか。二つ目は、雄物川でカヌー競走することです。このカヌー競走は、市内の小学校や中学校の生徒と市内の人が複数人で、一つのチームとなってカヌー競走に参加するというシステムです。もちろん入賞者には景品を渡したり、参加してくださったほかの方にも参加賞として景品をあげたりします。なお、この景品は湯沢市に関する特産品にしたいと考えています。そうすることで湯沢市の特産品も、PRすることができると考えました。このイベントでは、小学校や中学生が市内の人と関わりを持つことで、先ほど紹介した田んぼアートのように、地域の人と交流する機会が増え、地域全体が活性化すると考えます。しかし、これでは湯沢市に住んでいる人だけしかカヌーに乗って競争することができません。そこで、雄物川の風土活かします。雄物川は秋田県内を流れるとても長い川です。だから秋田県内の雄物川が流れる市や町も、カヌー競走イベントを行うという湯沢市に限らない大規模なイベントにするということです。こうするとカヌー競走イベントで秋田県全体が盛り上がり、湯沢市も自然に盛り上がっていくという一石二鳥な案だと考えました。この二つの案に共通して、大切なことは宣伝をすることだと思います。宣伝内容がよくても、アピールの仕方が悪ければ、幾ら湯沢市で楽しい企画や面白い企画などをしても県外からの来場者は見込めません。従来の湯沢市のイベントは、

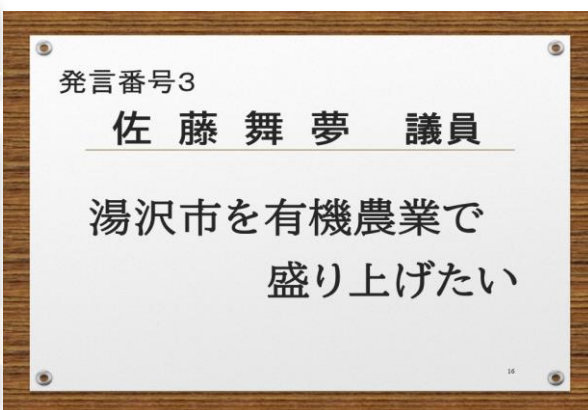


テレビやポスター、ホームページが一般的でした。これらの宣伝方法に加えて、私が最後に提案するのは、SNSの活用です。田んぼアートやカヌー競走の双方のイベントでは、若者も楽しめるということもあり、SNSを使った宣伝は大きな影響を受けると期待できます。今までは県内または市内のお客さんが多かったと思いますが、SNSを使うことにより、全世界に情報が発信されて、県内だけではなく、他県からの来場者も見込めると思います。まとめると湯沢の風土を活かして面白いイベントを行う。そのイベントを若者が中心となってSNSを活用し、宣伝する。以上のことを私は提案したいと思います。御清聴ありがとうございました。

沓澤正雄議員 御提案頂きました藤原由紀人さんの、湯沢の風土を活かした取組についてお答えします。一つ目は、田んぼを使った田んぼアートについてお答えします。田んぼアートは地域のにぎわいや、来訪者を呼び込む手法として良い企画であると思います。お話にもありましたとおり、この田んぼアートを実施するに当たっては、多種多様な人材が必要であるとともに、組織の設立や、計画場所の選定、承諾なども必要となります。これらのことから、地域活動経験の豊富な、地域自治組織の協力を得ながら、企画することが必要と考えます。田んぼアートは色彩が異なる、複数の稲を植えて、文字や模様を表現する。精密なアートで、遠近法による設計も必要です。湯沢市から支援が可能になるよう、所管の委員会に申し述べておきたいと思います。ここについて何かございますか。

藤原由紀人さん そこら辺がちょっと少し考えてなくて、組織化するとかっていうのは確かに今聞いてみて、そう思いました。参考になる意見だと思うので、ありがとうございました。

沓澤正雄議員 ぜひ、組織化して計画していけば、より大きな事業ができると思います。それと、二つ目は、雄物川でカヌー競争に関するについてお答えします。カヌー愛好者は、人口がどの程度の規模が分からないんですけども、競争となりますと、安全対策などの検討が必要と考えます。また、規模にもよりますが、スタッフの手配の準備などに要する期間が長くなることが想定されます。このことから、カヌー競争だけでなく、自然と触れ合いながら、家族でカヌーを楽しみ、体験することでカヌー人口を増やすことが、大切であると考えたいと思います。また、雄物川河川、頭首工等で分断されていることから、利用区間を定めて、起点と終点に無料バスを運行するなどの対応も必要と思います。また、先ほど言われておりますけども、SNSでの発信というのは、より効果のある、無限大に広がる可能性もありますので、やはりそういうものは大いに利用していただければと思います。以上です。



発言の映像は
こちら ↓



佐藤舞夢さん 本日はよろしくお願いいたします。皆さん、有機農業とは何か知っていますか。有機農業とは、科学的な薬品や肥料、遺伝子組換え技術を利用せずに行う農業です。この方法では、農薬を使った農業と比べ、比較的安全な作物を育てることができます。私はそんな有機農業を通して農業に興味を持ってもらうことで、それを仕事にする若者が増えてほしいと考えています。私は高校2年生の冬から湯沢青年会議所ジュニアクラブという団体の一員として、他校の高校生や青年会議所の方々とともに、湯沢の発展に向

けた事業を行ってきました。その事業の一つとして、商品化を最終的な目標としたサツマイモの有機農業を行いました。これは5月から行っており、有機農業について学び、その上で放棄されている畑を活用して栽培を行いました。そして私は、その過程で湯沢市の農業の深刻な担い手不足と高齢化の現状を知りました。湯沢市の農業従事





者は、平成 22 年から令和 2 年までの 10 年間で約 59%も減少し、高齢化率は 70%を超えています。湯沢市の農業は、地域コミュニティを形成する上でとても重大な役割を担っています。今の湯沢市のままではそんな大切な農業を続ける人がいなくなってしまう、やがて地域の産業として成り立たなくなってしまう。そこで、私は湯沢市の学生に向けた有機農業の苗植えから収穫まで

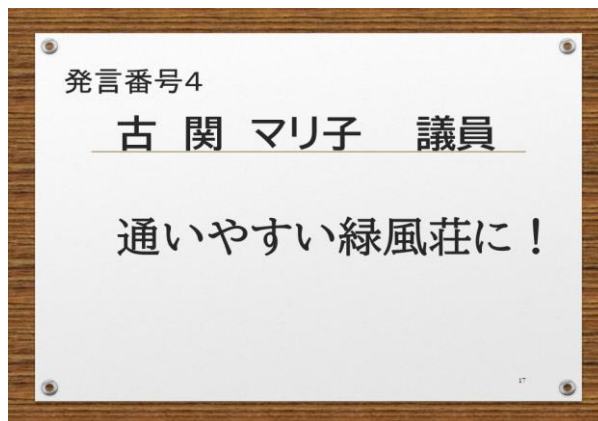
の体験事業を定期的に行うことを提案します。先ほどお話しした栽培事業には、ジュニアクラブの高校生や湯沢西小学校、東小学校の生徒も多く参加し、ニュースでも取上げられたほど大規模な事業となりました。その苗植えや収穫の際には、小学生、高校生ともに、とても楽しそうに終わった後にはまたやってみたいという声が多くありました。また高校生に関しては 4 回ほど畑に行き、草刈りなどの畑の管理も行いました。なれない作業ばかりで、とても大変でしたが、その分、収穫したときに大きな達成感を感じることができました。それとともに、小学生の楽しそうな顔を見たりして頑張ったよかったです、やりがいを感じました。これらのことから、実際に体験することで、若者の農業に対する関心が強くなることがよく分かりました。そのため、有機農業を学び、体験し、湯沢市の農業に興味を持つことで、それが湯沢市の農業人口を増やすことに大いにつながると考えています。私は、有機農業を行う農家を増やしたいと考えているわけではありません。若者が農業に関する、農業に関心を持つきっかけとして、あえてより手間のかかる有機農業を通して大変さを学ぶと同時に、楽しさとやりがいを知ってほしいのです。これらのことを踏まえ、ぜひこの有機農業に関する事業を定期的に行うという案の検討をよろしくお願いいたします。以上です。御清聴ありがとうございました。

小田嶋秋 一議員 今、非常に有機農業ということで、貴重な御意見ありがとうございました。私の周りでも、有志の方が、有機農業に挑戦して、今やってる。という話です。ただ有機農業っていいますと、御存じだと思うんですけど、害虫が多いとか、雑草が多いとか、いろんなそういう弊害っていうか難儀なことが、草が多いとかですね、言われますけども、何にしてもですね。体にいいとか、環境に優しいとか、良い面あるので、頑張ってお皆さん、応援していきたいと思っています。最後に、舞夢さんは、有機農業でどんな野菜とか、作って食べたいと思っていますか。理由は何かお願いします。

佐藤舞夢さん 今、具体的に考えていたっていうのはないんですけども、やっぱり野菜ですかね。野菜は、有機農業で育てることで安全ということがよく分かる作物だと思っているので、個人的には緑黄色野菜などを育てて、食べてみたいなと感じました。



小田嶋秋 一議員 ありがとうございます。



古関マリ子さん 生まれて初めてこういう皆さんのいる高いところに上げていただいて感謝しております。実は、緑風荘が新しくなり多くの皆さんに利用してもらえるよ送迎バスをお願いしたいと思います。主人と結婚した頃は友達のうちにお風呂もらいに歩いたものです。ようやく自分のうちを求めて子供たちを育て上げ、自分たちの生活が軌道に乗ったときに、大きい事故に3回も、遭いました。事故にあって40年になりました。お医者さんに温泉治療をするように、と言われてから、秋田県内の温泉はほとんど歩きました。



た。その中でも、緑風荘は近いし温泉の効用が自分に合っているの、主人が生きていた頃は、毎日行っていました。その後、主人が亡くなり、温泉に行くこともできなく、家族は家業が忙しく、なかなか思うようにいきません。車の運転免許がある人は自由に行けるでしょうが、我々のようなものは日中はバスを利用するしかありません。ただそのバスが本数が少なく、時間も合わず、なかなか利用できません。

私以外にも同じように感じている人が多くいるようです。そこでシャトルバスを、市内の前森から川連方面に、午前10時から午後3時の間に、午前中1本、午後から一本の割合、合計2往復してもらえるようにぜひお願いしたいと思います。毎日できないとすれば、週2回でもいいと思います。緑風荘の泉質がよく、他市町村からも来ているようです。市内の方々にも多く利用してもらえるよう1日も早い実現をお願いいたします。90歳のおばあさんからのお願いです。よろしくお願いいたします。お年寄りのお話で申し訳ないですけど、本当に今日は、ありがとうございました。



石川隆一議員 まずは古関さん、ゆざわ市民一日議会にご応募頂き、またこの壇上で、発言していただきましてありがとうございました。古関さんのほうからは、今御発言ございました緑風荘までのいわゆる、交通手段として、シャトルバスを運行していただきたいというような内容でございました。現在、緑風荘につきましては、4月の1日から改修工

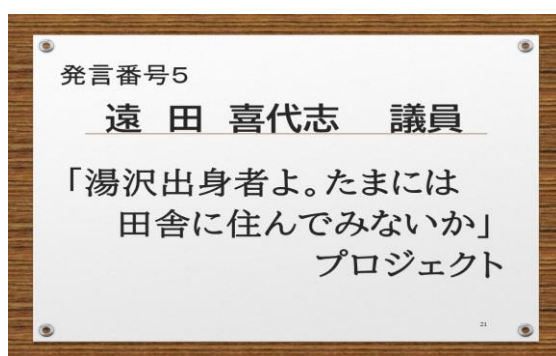
事にかかっておりまして、全面改装ということで今工事をしております。今月の末には完成の予定になっておりまして、11月頃には、完成検査、そしてそのあと様々な、物品を運んだりあるいは設備を入れたりして12月頃にはリニューアルのオープンと伺っております。現在緑風荘までのアクセスなんですけれども、やはり、路線バスでありますと、いわゆる、山谷トンネルを降りたあたりで一応下車しなきゃいけないということで、非常に時間帯には非常に本数が少ないということでございます。これはやはり、路線バスを運行する場合には、やはり運行する際のやはり運行の維持費だとか、それからいろんな経費だとか、そういった積算、それからあとは、利用者がどの程度負担できるのか、そういったことも十分考慮してですね、判断しなければいけないのではないかと考えております。ただ、市民サービスの向上ということになりますと、やはりリニューアルすることによって、利用者がどんどん増えていただいて、ぜひ緑風荘に足を運んで頂くということであれば、こういったこともやはり考えていかなければいけないのじゃないかなというふうに思っています。古関さんの今日の御発言は大変貴重なものだと思っておりますし、この一日議会終わった後には、きちっと振り返りをしながらですね、ぜひ今後、当局への話もしていきたいと思います。その中で現在、古関さんはよく改修前の緑風荘の場合に、どのような交通手段で通っていらっしまったのか、その点について、ちょっとお伺いしたいと思います。

古関マリ子さん 昔のお風呂は、ごみのお風呂でしたね。そのときはまだ私もお嫁さんになってきたばかりで、姑さんがやっぱり足をけがしてから、そこのお風呂に通うようになりました。そのときお姑さんはやっぱり1人では行けないの



で、私が付き添って入ったものです。それから今の緑風荘が地下から汲んですごくいいお湯が出て来るようになりましたので、おばあちゃん、今度はね、いいお風呂が地下から出てきたんだよって言って、おばあちゃんは、結構、連れて歩いたものです。母も、他界してしまいましたけれども、そして私もいろいろ事情があってなかなか自分の家をつくることもできなく、主人と一生懸命頑張って、よそのうちのお風呂をもらいに歩いたものでした。その当時はまだ今みたいにあっちこっちで温泉ができる時代でなかったから、よそのお家のお風呂をもらいに子供2人連れてよそのお家に御迷惑をかけたりして、その後、主人と一生懸命働いてようやく自分の家を求めました。求めましてから子供たち、女の子3人おりますけれども、みんな順調に育ってくれて、それなりに子供たちが独立し、していった、今度私とお父さん、の仕事があって軌道に載ってきて今度は、みんなで頑張れば、何とかみんなで御飯食べていけるなって、家族全員で順調に行ってきた頃に私が交通事故に遭いまして、信号待ちしていて後ろから追突、されたのが10年のうち3回もありました。それで私の体がこういうふうになってしまいましたので、主人が生きていたときはいつも、緑風荘まで送り迎えできる車を市役所で出してもらえるといいな、男たちがわざわざお前たちを山に送っていかなくてもいいものな。なんて言っていましたけれども、主人が生きてるうちは毎日のように365日、緑風荘さんのお世話になっていました。主人が亡

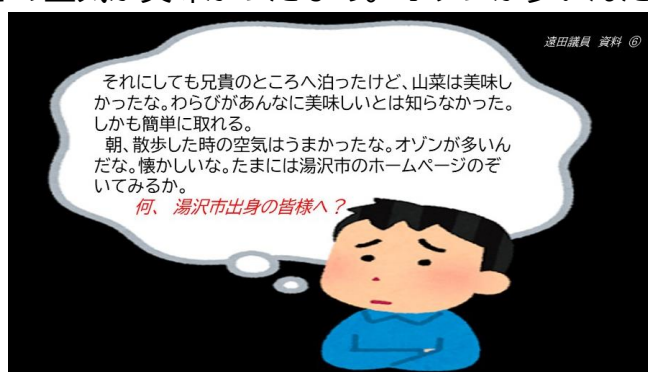
くなってから、やっぱり息子たちも仕事一筋で私を送り迎えすることができないので、醍醐の温泉に行ったり、共林荘に連れていってもらったり、もうこの辺の温泉は、みんな歩きました。そして、秋田県内外も、交通事故にいいよと言われれば、主人が一生懸命私を連れて、通ってくれました。そしてようやく私が、何ぼか御飯の支度できたり、うちのことができるようになりましたら突然主人が亡くなってしまいましたので、そして独りぼっちになったら、やっぱりお母さんたちがみんな私のうちに集まったり、今のやすんでたんせのお茶飲むとこに集まれば、シャトルバスが空で歩くんですね。私たちが温泉に行つて帰って来る頃に、ああ、このバスが緑風荘に送り迎えしてくれればいいけどなあってみんなでお話ししていて、そして、冗談が本当っこになってしまつて、私がここに立つようになってしまいましたので、それで、今心臓バクバクしてるんですけども、お願いに上がった次第です。よろしくお願いします。



発言の映像は
こちら ↓



遠田喜代志さん ある湯沢出身の思い、ということで始めさせていただきたいと思います。こちらのほうに資料ありますので、もしあったらそちらのほうを開いていただければよろしいかと思い。私は67歳、今埼玉在住です。定年退職して2年になります。定年後は待望の旅行をしてみたが、半年で飽きてしまった。その後は週2回のバイトをし、5万円の小遣いを稼いでいる。年寄仲間のサークルに入り、三無いマージャン、カラオケ、社交ダンスを楽しんでいる。と言っても、社交ダンスは妻に、あんたしっかりやってよ。真剣みが足りないのよ。とよく叱られ、確かに社交ダンスは妻に誘われて渋々のやったせいもあり、進歩がない。さて、ちょっとかなり飛ばしてます。田舎に帰ったときの同級会は楽しかったな。しかしまあ、皺は増えたが、髪は減っていたな。来年は東京で同級会を開くということになったので、会場と見学コースを考えないといけな。それにしても兄貴のところへ泊まったけど、山菜はおいしかったな。蕨があんなに美味しいとは知らなかった。しかも簡単にとれる。朝散歩したときの空気が美味しかったなあ。オゾンが多いんだなあ、緑が多いもんな。懐かしいな。たまには湯沢市のホームページでものぞいてみるか。何々、湯沢市出身の皆様へ、しゃれたことやってんだなあ、湯沢市出身の方、田舎にプチ移住してみませんか。湯沢市出身の皆さん、長期滞在してみませんか。歓迎します。6か月以上、御希望の方、住宅は湯沢市高松字〇〇。家賃月3万円。大体





のものは備わっていますが、調理道具などは持込み可です。近くで畑を借りることも可能。1週間以上半年以下御希望の方、住宅は湯沢市高松字〇〇。家賃は日 1500 円。1500 円とはキャンプより安いなあ。畑を借りるのは不可能です。そうか。それは当然だな。興味のある方は下記にお問合せください。湯沢市〇〇課。

0183・・・半年以上も、いるということで畑を

貸してくれる。農機具も貸してくれるのかなあ。だったら野菜がつかれる。秋田の野菜おいしいもんなあ。妻に相談してみようかな。というのが、さいたま在住の思いです。湯沢市出身者にとっては実家があるわけですから、短期でしたら実家に泊まります。が、長期となるとどうでしょう。いろいろ変わってるところがあるのではないのでしょうか。湯沢や秋田を語るとき、我々の仲間なんですから、よく話題に出るのは、雪さえなかったらいいんだけどね。ゆったりしているし、食べ物おいしい。意外とお金もかからない。ということです。それだったら、冬以外住んでもらえばいいのではないか。土地付空き家を整備し、長期間の貸出しをしてみる実験をしてもいいのでは、というのが私の提案です。湯沢市出身に絞ったのは、同級生がいること。親戚がいますから、慣れるにとてもハードルが低いです。こちらのほうとしては、おもてなしなどの気遣いは、ほぼ不要ということです。まとめますと、湯沢出身者にとっては、知り合いがたくさんいるので、情報が得られやすい。相談できる、湯沢の土地カンも当然あります。気に入ったらじっくりと家を探し、土地を探して、ちょっと長期に住んでみるということも可能です。当然飽きたら帰ると。ひょっとしたならば、先ほどありました南海トラフ地震、首都直下型地震、などを考えますと、都会なんかよりはこちらのほうがはるかに安全だなと。いうことも考えられます。市側にとっては、空き家の利活用、空き地の利活用ができます。都会には湯沢市出身者でつくる湯沢会、それぞれ中学校の卒業者でつくる会がやっぱりあります。それらの会に働きかけることもできます。そういたしますと、対象が、非常に絞りやすい。意外と交流もしやすいのではないかとというのが私の考えです。以上私の発表終わります。御清聴ありがとうございました。



柏原久寿議員 遠田議員、大変御苦勞でした。今、現在、埼玉のほうに在住なんですか。これは架空の話ですか。[そうです。と呼ぶものあり]そうですか。大変いい発言内容であったと思います。湯沢市の人口も、実際は5月末においては4万人を切っております。そういう中で、このようなプロジェクトの中で、交流的な人口、関係人口ですね。また、田舎を持ってる同級生方、大変結構なお話だと思っております。それと今、東海林副市長さんもおりますので、十分耳に、挟んでおられると思います。で、私、お聞



きしたいのは、こういう形で、例えば、空き家バンク等々あるわけですけども、利用している方っていうのは、おられますか。

遠田喜代志さん というより私の仲間で同級生も、同じ集落じゃないんですけども、中学校の仲間で何人かは退職した後、帰ってきています。それぞれのいろんな理由があるんですけども、その中でよく話に出るのは、都会の半分で生活できるそうですね、家賃が自分のうちがあれば、タダで泊まります。条件としては、恵まれているんじゃないのかなあ。ただ冬がですね、大変な、だからそこを除くことで。

柏原久寿議員 冬の問題は当然ありますけど、ここで生まれ育って成長して、都会のほうに行かれたということでありましょうし、そういう意味では、冬の魅力、これを、同級生方、知り合いの方ってのは分かってるはずだと思いますけど。

遠田喜代志さん 私も含めてなんてすけれども、冬の深さを十分知っているから当然帰ってきて生活できるっていうところはあるんですよ。やっぱりほかから他県から移住してきた東京とかあったかい所から移住してきた人はもう雪を見て帰る。ということはよく聞くんで、やっぱりターゲットを絞ったほうがやっぱり来やすいのかなと。私は、実際に自分が帰ってきてそう思っています。それはちょっとハードルを低くしてあげると帰ってくる人いるんじゃないのかなと。というのは、やっぱり最終的には人だと私は思うんですよ

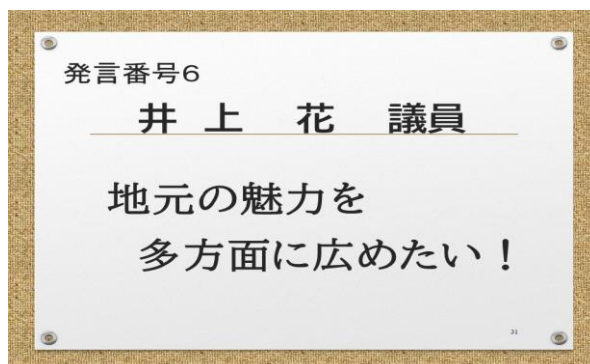


ね。仲間がいるとか親戚がいるというのは、ひょっとすれば、雪のハンデよりもそちらのほうを重視するという人もやっぱり中にいると思うんです。意外と都会は金がかかるし、仕事をやめちゃうと面白くないというところもありますので、私はこっちへ帰ってきていろいろやるのがたくさんあって、もう暇なしというところですよ。

柏原久寿議員 もうこちらに帰ってきて、何年になるのか。

遠田喜代志さん もう11年近くですね。それで1番最初、後ろに言わせてもらった。ジオパーク、それに参加をして、それでいきなり人脈が広がりましたね。もう湯沢の歴史そのものも自分が出身者であるにもかかわらず、ほとんど分かってなかったんですよ。ところがその会に入っている一緒に勉強しながら、ああ、こういうのがある、ああいうのがあるんだ。同じ一つの事例を見ても、やっぱり面白さが違いますよね。知るということは。そして自分のうちで、もともと農家だったものですから、畑を耕してみたり、そうすると、やっぱり年をとってるせいなんでしょうけれども成長、子供が成長するのは見るのが1番楽しいんでしょうけれども、野菜、でもですね、それを育てて自分で食べていうのはやっぱり違います。これは、来てよかったなと思っています。

柏原久寿議員 そういふことで、どうかこの後もいろんな形で仲間にそういふ話をしてもらえればありがたいなというふうに思います。それとまた議会のほうでも、遠田さんのお話をもとにしまして、いろいろ検討をしながら、当局にお話ししたいというふうに思います。大変ありがとうございます。



発言の映像は
こちら ↓



井上花さん 皆さんこんにちは。現在、湯沢市では深刻な人口減少が問題となっています。こちらを御覧ください。このように、令和22年には現在の湯沢市の人口のおよそ半分になるという予測があります。また、国勢調査に調査によると、特に若い世代の減少率がとても高くなっており、これを解決するために、地元の魅力を最大限に引き出し、多方面に広め、若い世代に働きかけていくということが必要であると考えます。湯沢市でも既に取り組んでいるものもありますが、さらにこうしたらよいのではないかとこの視点でお話しさせていただきます。まず、地域の特産品や文化を紹介する地域フェアを開催することを提案します。このフェアでは、地元の農産物や手工芸品、伝統的な料理を提供し、来場者



にその魅力を直接体験してもらいます。さらに、体験型のコーナーを充実させることで、子供から大人まで様々な世代の方々に興味を持ってもらえるきっかけをつくることができます。また、このスライドのように、移住について直接相談できるコーナーを設けることで、就職支援や新しいライフスタイルの提案など、移住を様々な側面から応

援することができます。実は湯沢市も移住フェアに参加していることを私は今回初めて知ったのですが、湯沢市民にも参加していることを周知することで、進学や就学で、現在地元を離れている人たちが湯沢市に戻ってくるきっかけになるのではないかと思います。次に、SNSを活用したプロモーションを強化します。特にInstagramやフェイスブックを通じて、地元の風景やイベントを定期的に発信し、魅力的な写真やストーリーを共有します。こちらは神奈川県葉山町の例です。ハッシュタグを活用することで、より多くの人に認知され、フォロワーの増加につながり、宣伝効果の最大化が期待できるでしょう。湯沢市でも、Instagramやフェイスブックなど、各種SNSを活用しています

が、まだバズるところまでは来ていないようなので、例えば、ハッシュタグ犬子祭りというハッシュタグを活用し、祭りに来た愛犬家の方たちをSNSで紹介し、全国の愛犬家の方たちに犬の聖地であることをアピールし、訪れる人を増やしていくのはどうかと考えました。さらに、観光客向けのガイドブックを作成します。このガイドブックは、地元の観光名所や飲食店、宿泊施設などの情報を掲載し、訪問者がより深く地域を楽しめるようにします。また、QRコードを利用してデジタル版を提供し、最新の



情報を常に更新できる仕組みを取り入れます。こちらは観光客を 35 倍にした熊野古道のマーケティングの例です。インバウンド需要も取り入れるべく、英語表記を統一し多言語に対応したパンフレットを作成するのもよいと思います。最後に、地域のイベントに参加することで、地域の人々と交流を深めることができます。例えば、こちらのまちあそび人



生ゲームというものは、実際の商店街を人生ゲームのボード版に見立て、実際にゲーム参加者が商店街を散策し、まちと人、店と人、人と人の新しい出会い触れ合い縁を創造していくイベントです。湯沢市でも月1度市民マルシェを開催しているようでしたので、その中で、このような地域交流イベントを開催することで、地域の若い人に地元の魅力を再発見してもらう機会を増やしてい

くのはどうかと思います。以上のアイデアを通じて、私たちの地域の魅力をより多くの人々に知ってもらうことで、湯沢市に訪れる人が増え、移住する人が増えたり、若い人も地元に残ったりするなど、まちのにぎわいが増え、人口減少解決の一助となると考えます。ぜひ、ここにいる皆さんの御意見やアイデアもお聞かせ頂ければ幸いです。以上で発表を終わります。ありがとうございました。

渡部正明議員 井上花さん、お疲れさまでした。湯沢市の人口減少、そしてまた若者たちの低下が激しいという、いろいろ資料を出してですね、その解決策を四つのアイデア、今出していただきました。資料もとても見やすく、何か私も一般質問で参考に頑張っていきたいなと思ったほどです。その中で地域フェアということで、やはり湯沢の人口って急に増えませんのでやはり移住というのは、とても湯沢



市も取り組んでおりますけども、やっぱり地域フェアということで、開催ということでこの湯沢のよさをやっぱりアピールするととてもいいアイデアだと思います。ちなみに湯沢市の一応窓口を利用してですね、平成 27 年から去年まで、97 世帯移住しております。現時点で 101 世帯、160 名ほどがね、湯沢に住んでるんですけども、もっともっと湯沢の魅力を発信して、移住の方が増えればいいなという意味では、地域フェアの開催、素晴らしいと思います。またその SNS 等での情報発信ってことで、先ほどは葉山町のことがあり

ましたけども、ハッシュタグ犬っこまつり、私も大賛成です。もうこの湯沢市は2月の小正月に2日間、犬っこ祭りあります400年以上の歴史文化あってですね、犬を敬う文化あるんですけども私、前からせっかく日本も犬、ペットじゃなく今家族ですよ。そういう中で、そういう方々が、やはり今おっしゃったように、犬の聖地ということでやっぱりこの湯沢に来てもらえるような、そういう環境を、泊まれるとか一緒に遊べるドッグラン、あとは安全祈願すると、いろんな環境を整備することによって、そこに愛犬家と一緒に来てですね、それを発信してもらう。そういうのは、まさに犬のワンダーランドになれば、いろんな打つ手、そういう帰省した人たちの生の発信されたことがバズる方向に私いくと思ってるんですよ。そうなれば、ワンダフルだと私は思います。また、先ほどのガイドブックなんかまさに今、インバウンド観光の中でやっぱりそういうことに対する対応って必要だと思いますし、パンフレットだけでなく、看板なんかもね、やっぱりそういう形で

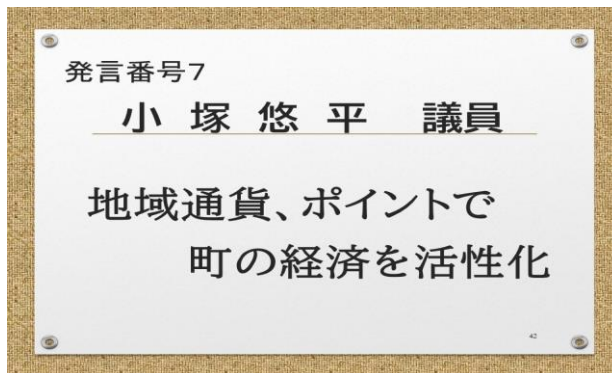


やれば、やっぱりどんどん、見やすいような環境づくりってというのは大事じゃないかなと思います。最後のまちあそび人生ゲームこれも面白いアイデアだなと思いますし、常に今、今年から市民マルシェ開催してますけども、それと一緒にコラボすることによって、町のにぎわいの創出につながるんじゃないかなと思いますんで、ぜひこれからも参考しにしながら、取り組んでいきたいと思

いますんで、本当に参考になりましたありがとうございます。そこで一つ質問なんですけど、やはりいろんな情報発信が大事だと思うんですよ。湯沢市も、市民の皆さんに情報発信していただけるように市民広報委員、いわゆる、通称湯沢PR隊ってのを募集してるんですよ。今年9人ほど募集されましたけど、結構高校生が多いんですけど、花さん今何年生ですか。ぜひ来年、もしでしたら、ぜひPR隊のほうに応募してもらってですね、また違った角度で湯沢市の情報を発信してもらえればありがたいなと思いますけどどうでしょうか。

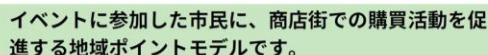
井上花さん 私湯沢市が行っているPR活動とかについてはとても関心があるって自分のにも調べているので考えていきたいと思います。

渡部正明議員 ぜひよろしくお願いします。ありがとうございました。



発言の映像は
こちら ↓





小塚誠司 資料2

10/25現在

① 店舗で利用済		② 未交換
01	現金	現金
02	現金	現金
03	現金	現金
04	現金	現金
05	現金	現金
06	現金	現金
07	現金	現金
08	現金	現金
09	現金	現金
10	現金	現金
11	現金	現金
12	現金	現金
13	現金	現金
14	現金	現金
15	現金	現金
16	現金	現金
17	現金	現金
18	現金	現金
19	現金	現金
20	現金	現金
21	現金	現金
22	現金	現金
23	現金	現金
24	現金	現金
25	現金	現金
26	現金	現金
27	現金	現金
28	現金	現金
29	現金	現金
30	現金	現金
31	現金	現金
32	現金	現金
33	現金	現金
34	現金	現金
35	現金	現金
36	現金	現金
37	現金	現金
38	現金	現金
39	現金	現金
40	現金	現金
41	現金	現金
42	現金	現金
43	現金	現金
44	現金	現金
45	現金	現金
46	現金	現金
47	現金	現金
48	現金	現金
49	現金	現金
50	現金	現金
51	現金	現金
52	現金	現金
53	現金	現金
54	現金	現金
55	現金	現金
56	現金	現金
57	現金	現金
58	現金	現金
59	現金	現金
60	現金	現金
61	現金	現金
62	現金	現金
63	現金	現金
64	現金	現金
65	現金	現金
66	現金	現金
67	現金	現金
68	現金	現金
69	現金	現金
70	現金	現金
71	現金	現金
72	現金	現金
73	現金	現金
74	現金	現金
75	現金	現金
76	現金	現金
77	現金	現金
78	現金	現金
79	現金	現金
80	現金	現金
81	現金	現金
82	現金	現金
83	現金	現金
84	現金	現金
85	現金	現金
86	現金	現金
87	現金	現金
88	現金	現金
89	現金	現金
90	現金	現金
91	現金	現金
92	現金	現金
93	現金	現金
94	現金	現金
95	現金	現金
96	現金	現金
97	現金	現金
98	現金	現金
99	現金	現金
100	現金	現金

しました。スマートフォンの普及率も70%台であり、操作に不慣れな人も多いことも、実証実験で確認することができました。そのため、より使いやすいアプリを考案する必要がありますと感じました。地域通貨を導入する際には、これらの課題をどう解決すればいいのか検討しなければなりません。私の考える解決策は主に五つです。アプリは高齢者も使いやすいように、文字やデザインを大きく見やすいものにす



る。プレミアム商品券を地域通貨に連動させて利用を促進する。決済手数料は店舗に負担させず、自治体がサブスクリプションで企業と連携する。値引きなどではなく、ほかの決済サービスと同じく現金チャージ方式にする。ゆざわタバスケなどのサービスも連動させるの五つです。解決策の基本的な方針を簡潔にまとめると、加盟店舗の負担をなるべく減らす、地域通貨は高齢者にも難しくないものにする。高額な商品を扱うお店での利用率を上げるということです。一つずつ解決していくことで、地域通貨や地域ポイントの導入は、まちの活性化のきっかけになると考えています。町の経済がよくなれば、少しずつ税収も増え、先ほど古閑議員さんが話してくれたような、サービスの運用費や経費にも回すことができると思います。湯沢市を持続可能なまちにするためにも、経済の活性化のきっかけとして、地域通貨、地域ポイントを提案して、私の発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

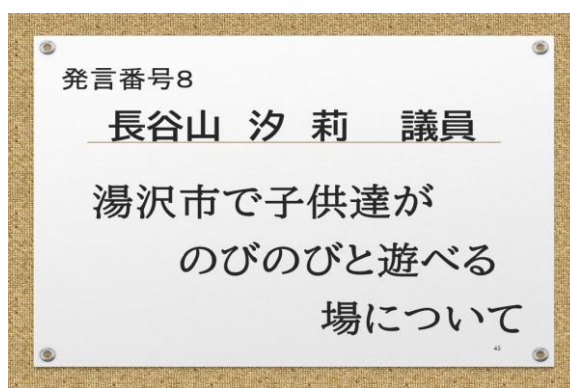
高橋克己議員 小塚さんの発表、高校生ということなんですけれども、素晴らしい内容であった。そして、さらには湯沢の休日で実証実験までされたという、そういう経過をもって今発表された。本当に頼もしいなというふうに私は今感じました。たまたま今年ですね、私の所属する産業建設常任委員会で、この地域通貨についてのですね、調査研究を実際行っております。先進地におきまして、この地域通貨をスマホに購入しまして、実際その地域で使ってもきました。帰ってきてからですね、県内の金融機関、それから全国の手前の金融機関の方々をお呼びしまして、地域通貨、ここで使えるか使えないか、どのようにして普及していけたらいいかという、いろんな研究会も、実際やってみました。今度それをもとにですね、ここの市役所の商工観光課と、実際にこの湯沢市で、これを導入した場合どうなのかという、いろんな研究も一緒にさせていただきました。やはり見えてきた中にはですねいろんな問題が出てきたわけです。今小塚さんもいろいろ最後のほうにいろんな問題で上げておったわけなんですけれども、まず一つはですね、こういうお金が動くセキュリティーの高さのシステムを、構築するためには、やはりそれなりの企業がそれなりにお金を払ってつくってきている。当然、私たちがそういう利用するとすると、イニシャルコスト、ランニングコストがかかる。この額が結構な額なんです。これをどう下げていくかという問題が一つなんです。それからもう一つはですね、今スマホの普及率7割と言っておりましたけれども、7割は普及してるかも分かりませんけれども、実際にそれを電子マネーで使える人の普及率はどのぐらいか



て言った場合に、当局の商工観光の報告では4割にまだいってないんじゃないかと。こういういろんな問題がまだいろいろ残っている。しかしながら、これからこのシステムは、やはり地域で自治体も使っていかなきゃならない大事なシステムだと思います。どうやってそれを使っていけるかを、これからもう少し研究していただき、特にスマホの普及率、お金として使

えるスマホを普及率上げるのはどうしたらいいかなというちょっと考えがあったらお願いします。[難しいと呼ぶものあり]難しい。そうですね。スマホで情報取ったりするのは、取ってる人は高齢者の方も結構いらっしゃるんですよ。しかしながらこれをもってお金を払ってくる、そしてチャージする。こういう言葉で行ける高齢者の方はまだまだ少ないというふうに感じています。私は、こればかりでなく、今後このスマホというものはこの地域を明るくするものだと思ってます。別のこともちょっと考えてることがあるんですけども、今何年生ですか。[3年生と呼ぶものあり]3年生。この次に同じようなことをやって研究してくださる方がもしいるのであれば、私の考えが少しまとまったらですね、翔北高校にぜひお願いしてですね一緒に研究してみたいことがありますので、後輩の方に伝えておいていただければと思いますがいかがですか。

小塚悠平さん よろしくお願ひします。



長谷山沙莉さん 本日はこのような発言の機会を与えてくださり、ありがとうございます。長谷山沙莉と申しますよろしくお願いいたします。今回私が発言したい内容は、湯沢市の子供たちが伸び伸びと遊べる場についてです。私自身3人の子供がおりまして、ただいま育児に奮闘中です。1番上の子が9歳なので、湯沢市で約9年間子育てをしてきましたが、子供たちが遊べる場所が少ないと感じます。今の子供たちの周りは様々なメディアであふれています。私たちが子供の頃は近所のセンターだったり、友達の家を集まってみんなで外を走り回ったり、家で一緒にゲームなどして遊んでいましたが、今の子供たちは別々の家にいながらも、友達とゲームでつながったり、オンラインでは世界中の人々と簡単に知り合うことができってしまう環境です。外で遊ぶことより、家でゲームなどをしているほうが楽しいと感じている子供が多くなってきているのではないのでしょうか。外で伸び伸びと遊ぶ機会や場所が少なく、学校以外の子供同士の対面でのコミュニケーション能力



が低下しているように感じます。そこで、子供たちが伸び伸びと遊べる場所として、この湯沢市の大自然を生かした大型アスレチック施設や廃校になっている学校を再利用した屋内複合施設を考えてみてはいかがでしょうか。大型アスレチック施設では、様々な難易度のアスレチックを用意し、小さい子供から大人まで家族みんなが遊ぶことができます。



兄弟がまだ小さかったり、乳幼児がいる家族、お孫さんと一緒に訪れた祖父母の皆さんのために、屋根つきの休憩場を各エリアに設けたり、授乳室やおむつ替えなど細かいことに気を配った施設は、訪れた人全員が楽しく過ごせる場所になるのではないのでしょうか。子供同士の交流はもちろんですが、子育てをしている親同士の交流の場にもなり、ママ友ができたり、日々の育児の悩みなどを共有で

きる場にもなりません。思い切り外で体を動かすことで、成長期の子供たちの体づくりや体力づくり、日々のストレス発散にもつながるのではないのでしょうか。また、子供の減少で廃校になってしまった学校が多くなってきています。廃校を再利用し天気に左右されることがない屋内複合施設を考えてみてはいかがでしょうか。子供たちの将来の選択肢が増えるような体験型テーマパーク、子供たちがいつでも気軽に集えるコミュニティ施設、子供から大人まで楽しむことができるイベント会場など、廃校の活用方法は無限大です。このような場所を増やすことで、子供たちが今よりもっと自分の住んでいる湯沢市を好きになり、自慢できる場所になるのではないのでしょうか。湯沢市外や県外からも遊びに来てくれる人が増えることで、湯沢市に活気が出てくると思います。今の子供たちは、これからの湯沢市にとってとても大切な存在です。少子化が進む中で、子供を増やすことも大事ですが、今いる子供たちのために何ができるのかを考え、行動することで未来につながってくるのではないのでしょうか。これからの湯沢市が子供たちにとってよりよい場所になるように願っております。発言は以上です。ありがとうございました。

佐藤功平議員 長谷山汐莉さん、本当に御苦労さんでございました。発言のテーマは、今湯沢市の子供たちが伸び伸びと遊べる場所が少ないというイメージがあります。それから学校以外の子供同士の対面でのコミュニケーションは非常に不足してるというのは今、問題提起されておりました。廃校になっている、学校再活用した、屋内複合施設の必要性の提案をされております。それで廃校になっている、例えば、体育館などをですね今言う今汐莉さんのほうで言われました利活用の中で、多目的に使えるような、例えば今よりのボルダリングとか、それからスケートボードというのは今結構どこでもね、あるんで、そういうのをですねやっぱり体育館を再利用しながら、やっていくというのでは非常に意見が合いますので、そういうのではそうってくればいいのかと思っております。それで子供たちの体力づくりとかですね。それから日々のストレス発散につながっていくだろうというふうに思っております。もう一つ提案されております、今の子供たちは、これからの湯沢市にとっては大切な存在であるという、意識を持っておりますので、これも全く共感しております。子供たちはいつの時代もですね、やはり地域の宝物かなというふうに思っておりますし、子供たちの笑い声とかですね、ザワザワというような声がですね、やはりその地域を明るくしながら、



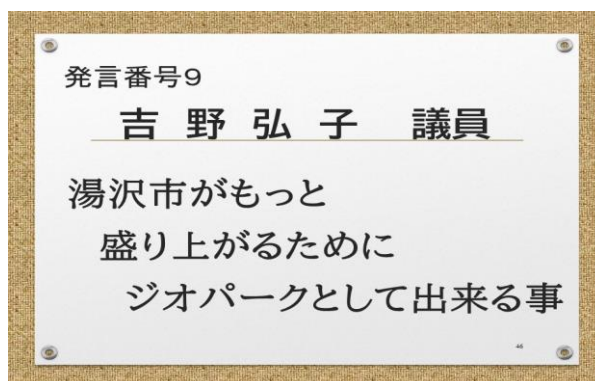
元気にしてくれるというのでは非常にですね、今汐莉さんの話の中では、僕も全くそのように思っておりますので、子供たちがですね住みやすい環境づくりということでは、やはり、その住みやすい環境づくりの中でやはり行政の仕事とか、我々議員のですね、地元の役割だろうと思っております。今後ともですね、いろんな面で御助言を頂ければと思います。一つだけちょっと触れさせていただきましても、この湯沢市の複合公共施設というのが今ありまして、3階建てなんですけど3階で親子で遊びながら学び云々というのは、令和8年の10月に開館予定ですので、それも含めてですね、いろいろ助言していただければと思います。一つだけ質問あります。長谷山汐莉さん、今日はですね一日議会と



いうことでありますが、ぜひですね、自分の思い描くテーマ実現のために、議員に挑戦してみたい。それをもうここで明確にしていいただければ、来年の10月ですので、まだ今30代でしょ。非常にいいタイミングだと思うんだけどねこういうのを経て、恐らく今日来ている人はみんなあなたに入れますよ。うん、頑張る。だから、そこをちょっとやるか、やらないかはっきり、ちょっと。

長谷山汐莉さん すいませんですが、まず、ここ湯沢市がよりよくなるように、私も、個人でもちょっと考えて意見などを述べる機会があれば、そういう機会に参加したいと思えます。すいません。

佐藤功平議員 分かりました



発言の映像はこちら ↓



吉野弘子さん こんにちは。吉野弘子です。よろしくお願いします。私は、湯沢ジオパークが認定された2012年に講座を受講し、2014年に認定ガイド1期生になり、今年で10年になりました。湯沢生まれ、湯沢育ちでしたが、学校でも地域でも湯沢のことを学ぶことが少なく、ジオパークと出会い、初めて湯沢の大地の歴史や大地と人々のつむいだ物語を学び、そのすばらしさや魅力を知ることができて、本当に感謝しています。そして、今、その湯沢の宝物を地元の小中学生の皆さんやお客様にお伝えすることがとってもうれしいです。現在はガイドのほかに、湯沢駅観光案内所や道の駅おがちの案内所に月6回ほど、勤務し、よそから来られるお客様に見どころを案内しています。ジオパークは全国に47あり、毎年いろんな地域で全国大会が開催されています。私もおかげさまで8回参加し、全国の皆さんと交流し、湯沢をPRしてきました。お知り合いになった方も多く、S



NS、フェイスブックで湯沢ジオパークの活動や見どころを発信し、全国の皆さんが、関心を示して、みてくださっています。昨年は全国のオンラインツアーにも挑戦し、湯沢を全国に案内させていただきました。その積み重ねの成果も少しずつ出て、全国各地から、今年は北海道洞爺湖、三笠から30人の皆さんが来てくださいました。ただ、この10年、そうした活動を続

け、ガイドの会やガイド個人の力ではどうにもならない、いろいろな課題が見えてきました。一つ目、受入れ体制が弱い。まず、お客様が1番楽しみにしているお土産などの買物ができるところ、ATM、お食事するところが少ない。もう一つはアクセスが悪い。車や団体のバスならまだしも、個人で来られた方のアクセスが悪く、特に川原毛地獄は、泥湯までは何とかいけますが、その先は至難のわざです。お客様の苦情に頭を下げるしかありません。二つ目は、認定当初は推進協議会の団体の皆さんの協力、応援、市民へのバスツアー、講演会、いろいろな催物があり、盛り上がっていましたが、今は市民への発信、周知が少なくなり、関心の薄さが、ガイドになる方の少なさにつながっています。ガイドも高齢化して、せっかくすばらしいものがあっても伝える人がいないと、大地は1人で語ることはできないのですから。そこで私から三つの提案をお願いしますので、どうか御検討

よろしくお願いします。1、受入れ体制をしつかりと整える。2、市民、お客様への発信周知に力を入れる。3、湯沢市全職員、全議員の皆さんにもっと湯沢ジオパークを知っていただきたい。詳細は、1の受入れ体制は、駅周辺、新しい複合施設にお土産が買えるコンビニ機能のようなお店を検討してほしい。無理ならば、市役所の売店におみやげなども増やして、土日、夜も9時頃まで開くなど検討してほしい。二つ目のアクセスは、こまちシャトルが大分整備されてきましたが、まだまだ改善すべき点が多いので検討してほしい。川原毛地獄へのアクセス、乗り合いタクシーも含めて、市民、観光客、その案内する誰もが使いやすく、分かりやすい仕組みをつくる。例えばスマホで誰でも見られ、予約変更キャンセルができるように、これからのインバウンドも含めて重要と思います。2の周知、発信については、市民、お客様に向け、興味関心を引く講座やイベント、バスツアーなどにもう少し力



を入れていただきたい。3の行政、議員の皆様に対しては、湯沢ジオパークをもっと知ってもらいたいと思います。湯沢市民の代表でもある湯沢市全職員、全議員が湯沢ジオパークを通して湯沢の宝物に気づいていただき、官民が一致団結して、湯沢市がもっと盛り上がるように進めてもらいたい。そして、改めて推進協議会の団体の皆さん、御手元の資料を見ると見ていただきたいんですが、それだけの

湯沢市ジオパーク推進協議会構成団体	
1 湯沢市	23 東北自然エネルギー株式会社 湯沢事業所
2 秋田県雄勝地域振興局	(旧東北電力株式会社上の信地熱発電所)
3 湯沢商工会議所	24 湯沢地熱株式会社
4 ゆざわ小町商工会	25 湯沢市議会
5 一般社団法人湯沢青年会議所	26 湯沢市教育委員会
6 一般社団法人湯沢観光物産協会	27 秋田県立湯沢翔北高等学校
7 湯沢市雄勝観光協会	28 秋田まるごと地産物産ネットワーク
8 湯沢地区自治協議会	29 湯沢市地熱開発促進協議会
9 湯沢7地区自治連絡協議会	30 秋田県ハイヤー協会横手湯沢雄平支部
10 稲川地域自治連絡協議会	31 小安映観光案内人の会
11 雄勝野づくり連絡協議会	32 羽後交通株式会社 湯沢旅行センター
12 雄勝地域自治協議会	33 小安地熱株式会社
13 NPO法人がらふるさと学校	34 株式会社秋田銀行 湯沢支店
14 秋の郷土祭実行委員会	35 国立大学法人 秋田大学横手分校
15 雄勝観光ガイドの会	36 湯沢市小・中学校校長会
16 雄勝観光ガイドの会	37 ゆざわジオパークガイドの会
17 湯沢市文化財保護審議会	38 稲川ガイドの会
18 林野庁東北森林管理局秋田森林管理署湯沢支署	40 秋田県漆器工業協同組合
19 こまち農業協同組合	
20 雄勝広域森林組合	
21 湯沢交通株式会社 湯沢自動車営業所	
22 JR東日本秋田支社 湯沢駅	
以上 40 団体	

40もの構成団体の皆様にもっと働きかけ、お金を出せないなら、みんなで知恵を出し合
って、この湯沢市、このすばらしい湯沢を盛り上げ、未来に希望を持って湯沢ジオパーク
を基盤にして発展してほしいと願っています。どうか御検討のほどよろしくお願いします。以上で発言
を終わります。ありがとうございました。



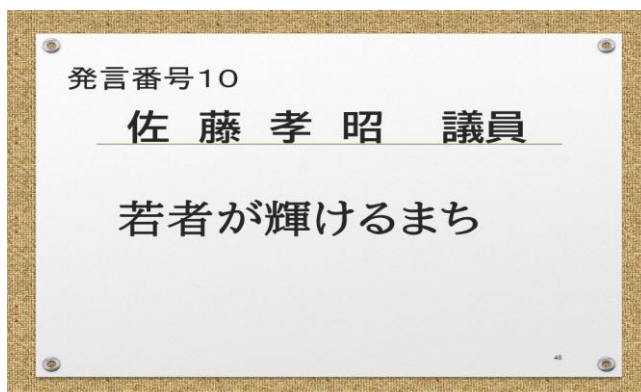
宮原晃議員 それでは、私から吉野さんの質問につ
いて簡単に、感想を申し上げたいと思います。吉野
さんは、湯沢市ジオパークが認定されてから、ジオ
ガイド等長年にわたり、活動していただいているこ
とに感謝申し上げます。吉野さんが、ジオガイドや観光案内施設において、観光客に接し
ている中で、課題となることについて、提案がありました。1点目は、湯沢市のお土産を
ている店や、食事をするところが駅の近くにないので、今建設を予定されている複合施設
にコンビニを計画してほしいとの提案がありましたが、設計もほぼ決定しておりますの
で、複合施設内には難しいと思いますが、国道に面した余剰地があります。ここは、集客
が期待できる場所であり、町ににぎわいを生む商業施設誘致を検討していますので、今
後、議論を重ね、よりよい商業施設が期待できるかと思います。また、市役所の売店につ
いてですが、スペースも限られていて厳しいかと思いますが、運営する企業にお願いすれ
ば、お土産等を置いてもらえるような可能性はあるかと思います。また、店の営業時間
に関しては、市と企業との契約、内容の協議により、ある程度の時間の変更は可能かと思
います。2点目は、交通アクセスについてですが、観光客や案内者が簡単にスマートフォン
やタブレットで簡単に乗り合いタクシーの予約変更キャンセルができるよう、私たちも
仕組みについて学び、協議していきたいと思います。3点目は、ジオパークについて、市
民や市職員、議員全員に知ってほしいとの提案がありました。10月18日から20日まで、日
本ジオパーク委員会による湯沢ジオパーク再認定審査の現地調査が行われましたが、2020
年のとき審査でジオサイトの有機的活用の在り方、PRの手法について、日本ジオパーク
委員会から指摘があったようですが、今回はどのような指摘がされるか心配されま
すが、湯沢市全体で、盛り上がらないと、各方面からの観光客が増えてこないと感じてお
ります。今後、ジオパーク活性化について協議していただければと感じました。産業建設



常任委員会としても、湯沢ジオパークの在り方
について協議する場を設けていかなければと感じ
ております。以上であります。さて、私から
吉野さんに質問ですが、湯沢ジオパークについ
て、湯沢市がもっと盛り上げるために進めても
らいたいというお話がありましたが、具体的
に、どんな方法が考えられますか、お考えをお
願いたします。

吉野弘子さん まずは行政、市議会の皆様、本当にこれまで尽力頂き、まず感謝を申し
上げます。それで、私は行政、推進協議会の、ここに書いてる 40 もの構成団体、あとジ
オガイドと積極的な話し合いっていか協議の場を持って、具体的な活動、どのようにした

らいいかという活動方法を考え、もっと行動して活性化してもらいたいと思います。先ほど、学生の皆さんの本当にいいアイデアも聞いたので、そういういろんな考えをみんなが出し合ったらすばらしいものになるなと。それで、私の夢ですが、本当に議員の皆さんや、職員、そういう方たちが本当にジオパークを知ると、私もう本当に、わくわくして楽しいことを人にいっぱい伝えたいんです。だから、行政、市民、市議会の皆さんも、ジオパークガイドサポーターみたいになったら、もっと気づかない湯沢の宝ものを話したくなり、湯沢がもっともっと盛り上がっていくのではないかなと思うので、ぜひ湯沢ジオパークをもっともっと知ってもらいたいと思いました。以上です。よろしくお願いします。



発言の映像は
こちら ↓



佐藤孝昭さん 今現在湯沢市で若者が輝いていないかということそうではないと思います。若い人がお店を開いたり、おうちを建てたり子育てをしているので、一定数は、未来に夢を託して輝いていると思います。ですが、この一定数が少なくなっているのが今の湯沢市の現状ではないでしょうか。これは湯沢市に限った話ではなく、遠くない未来に地方に住んでいる全員が直面する課題でもあると思います。では、若者が輝けるまちとはどういったものなんでしょうか。まず、働く場所がしっかりと確保されていること。仕事での給料で安定した暮らしができること。やはり所得が少なければやってみたいこともできないかもしれません。金銭的な問題を解決して、かなうことであれば、お金の問題で、将来の可能性がつぶされていることになります。才能のある人が開花できなければ、地域の発展が遅れてしまうということにもつながります。次に、子育てがしっかりできるということ。子育てをするための教育費なども一定額が必要になってくるので、所得もある程度必要になってきます。子育てのためには、住宅などの環境も必要でしょう。お金が全てというわけではありませんが、ほとんどのことにお金はかかるんです。では、このお金をつくるには、商品商材の売買が必要です。つくる側と買う側がいなければ経済は潤っていきません。ここで考えられることは、物をつくっても買う人がいなければ始まらないということです。買う人を増やすには、湯沢市への旅行者を増やす。移住をしてもらう。純粋に人口が増える。そして、リピートして物を買いつける状態が続くと安定できると思います。リピート客を増やしていくとなれば、旅



行客や移住者に頼りつつ、子供たちがたくさん生まれて人口が増える必要があります。ですが、今はなかなかお子さんが生まれていない状況です。出産により人口が増えるには、各御夫婦から3人の子が生まれていなければ増えません。さらに、お産が少なければ、産婦人科なども減っていき、ますます子供が生まれない環境になり、人口が増えにくい状態になってしまいます。それを防ぐための手段として、例えばの話ですが、湯沢市として各夫婦に第三子が誕生した場合に、湯沢市に住んでいる限り、その世帯の住民税70%減額、第4子が誕生した場合は、住民税免除といった対策があればいかがでしょうか。減ってしまった税収を確保するために、ふるさと納税をしてもらえるまちづくりにも力を入れ



て、全国から湯沢市は魅力のあるまちだと認識してもらうことも必要でしょう。この住民税免除のお話では、お子さんを連れて再婚された方やシングルで頑張っている方、不妊に悩んでいる方々などへの配慮も必要になってくると思いますので、一つの例として、お聞きいただけると幸いです。また、第二子、第三子と出産された家庭への対応として、子育てを一度経験してるから大丈夫だよねと。その一言で済ませるのではなく、第一

子同様に丁寧な対応をしていただくことで、子育て世帯をサポートしていただきたいです。子供が生まれる環境を整え、子供が育つ環境を整えることで、住みやすいまちづくりへ、住みやすいまちへつながり、需要が増えることで、供給量も増え、働く場所の確保もできるのではないのでしょうか。このまま人口が減ってしまうと、町そのものが機能しなくなるので、若者が輝けるまちをつくるには人口を増やすことが1番大事だと言えるでしょう。また私は、現在、雄勝地区に住んでいて、そこでの取組の一つとして、秋ノ宮若者ミーティングというものに参加しています。この会に参加することで、お隣の院内未来塾のメンバーの皆さんであったり、各年代の方々と交流することができ、皆さんの地元に対する思いや意見を聞くことができました。ここで1番感じたことがあります。それは皆さん地元のために一生懸命に取り組んでいることです。ああだったらいいのになあ、こうだったらいいのになと、たくさんの意見が出てきます。なかったらつくればいい、という最高の言葉に支えられて日々活動しているのです。このように、湯沢市には活動の原動力となる原石がたくさんあります。この原石を見え磨き上げることで、より若者が輝けるまちへ移行できるのではないのでしょうか。頼まれ事は試され事です。今を生きている皆さん、一緒に力を合わせて湯沢市を輝けるまちへとつくり上げていきましょう。以上で発言を終わります。

加藤昭嗣議員 それでは、私のほうから答弁させていただきます。ただいま佐藤様からは、若者が輝けるまちのテーマで御意見を頂きました。その中で私なりに感じたことを述べさせていただきます。最初の金銭的経済的な面では、やはり私も子育てしているこ



とからとてもお金がかかるなということは承知しております。そうした中で少子化対策については、税金の免除やふるさと納税についての提言がありました。税金の免除についてはどこまで効果があるか分かりませんが、検討に値するというふうに思います。ただやはり何かしらの直接的な支援、給付が必要ではないかと思っております。そして提言にあるように第二子以降からの継続した支援やサポートは当然重要であると感じております。そこで湯沢市では今年度から給食費の無償化が始まりました。多少なりとも子育て世帯の助けになっているものと思っております。またふるさと納税についてであります。現在5億円ほどの寄附を頂いて、おりますが、先ほどの給食費無償化の財源にも充てております。今後ですね給付額をもっと増やして、子育てに関する予算を増やすことで、子育てに優しい



い町をアピールして、湯沢市や魅力のある町など全国に認知してもらえたらと私も思っているところです。そして現在の雄勝地区での活動状況についてお聞きしました。地元のために皆さん本当に一生懸命になって頑張っているということで私もうれしくなりました。そして同じ活動している他地域の方々との連携を今後とも続けてほしいと思っております。まだ原石を磨きをかけることに関してもその

とおりであると思いますし、私自身思うのはやはり、子供の頃からのふるさと教育、これを通じて地域への思いや資源の発掘をしっかりと行っていくことが大切であるなというふうに私自身は感じております。これは湯沢市と同じように、少子化に悩む自治体に視察研修に行った際にも、担当者から伺っておりますけれども、少子化対策には特効薬はないが、ふるさと教育をしっかりと行うことの重要性を数多く聞いておりますので、どうかこれからも地域の魅力を磨き上げていただければなというふうに思います。そこでですね我々、教育民生常任委員会に私は属しておりますけれども、先日、湯沢市若者や女性が輝くまちづくり推進協議会、その方たちと意見交換会を行わせていただきました。ぜひですね今回佐藤様が所属している、会と意見交換会などしていただければなというふうに思いますが、その点についてはいかがでしょうか。

佐藤孝昭さん はい。機会が頂けるのであればぜひ、ほかの地域の方々と、そういったですね私たちだけではないアイデアというものを本当に求めていますので、何かと何かがつくることによって化学反応が起きて、それが湯沢市真ん中からじゃなくても湯沢市として発展するのであれば、快く引受けたいと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

加藤昭嗣議員 どうぞよろしくお願いします。

5)スナップショット



受付中です。



本日は、よろしくお願いします



議員席に着座(リハーサル)



議場で議員を御紹介(リハーサル)



議員がお手本を・・・(リハーサル)



議長 3番、・・・(リハーサル)



いよいよ本番です。



議長に一礼



発表の様子



議員からの質問に苦笑い



副市長と教育長から御感想を頂戴しました



記念品をお渡ししました



終了後の記念撮影 皆様、本当にお疲れ様でした

5. 開催終了後の参加者アンケートから

1) アンケート(参加者・傍聴者)

自由記述(ご感想やご意見などをお聞かせください)

議員の方々が真剣に聞いてくださりありがたかった。ここで提案されたことを前向きに検討してください。

傍聴していて、改めて言われると「あ、そうかも」「その方法があるんだ」と考えさせられる。新しい発見をすることができました。

他人事のように考えていたことも、しっかり目を向けて、自分自身で考えていきたいと強く思いました。今後の問題やアイデアをたくさん出して市を盛り上げていきたいです。

市議会の活動が活発になっているのはとても良いことだと思いますが、議会事務局のスタッフの負担が大きくなっています。人員を増やすか、働き方改革もよろしくお願いします。

発言者や回答者の様子を見られて有意義だった。

市議会がどのように行われているかがわかりました。

皆さんとても参考になる発言をしていてとても勉強になりました。今日は貴重な時間をありがとうございました。

議員さんのスタンスがよくわからないところがあった。

自分とは違う視点からの発言が多く楽しかった。今回、学校の活動として参加しましたが自分もやってみたいと思いました。

いろいろな意見があり、面白い。できるだけ市民の意見は聞いてほしい。

古関さんの意見が参考になりました。バス路線は広げるとよさそう。

色々な方法で市を活性化できることを発見できた。自分が気付かなかった方法がたくさんあって、これなら町おこしできそうと思った。

市全体の事でなくても個人的な理由でも良いと思いました。

”ほかの議員の方の発言を聞き、また新たに湯沢の良さ魅力に気付くことができました。

今日、議会で発言したことは、自分にとってとても良い経験になりました。これからも、湯沢についてもっと調べたいと思いました。”

”色々な意見を聞くことができ、学生さんや市民の皆様が本当に湯沢を良くしたいと思っていると感じました。これからも、市民の意見に耳を傾けて、

よい湯沢市に、住みよい湯沢市になりますよう願っています。”

自分で発言した、問題・魅力以外にもほかの発言者の発言によって様々な湯沢の現状を学ぶことができた。今回、一日議会に参加したことで、このまちの改善点だけでなく、今、行っている取り組みなど良い点にも気付くことができ、とても有意義な時間となった。

10人の議員の発言の中に、共通点があった。とても貴重な経験ができました。ありがとうございました。

湯沢の発展のためには、たくさんの視点で課題を見つけ、改善していくことが大切だと気付きました。

湯沢市に貢献したいという想いが強まりました。

今日集まった一日議員もこれからの原石です。10 人の意見をどのように次のアクションプランにするのが重要だと思います。色々な方の意見を集めることはとても大事な事だと思いました。たくさんの人に発言してもらいたいです。

中高生がしっかり発言できることに驚きました。

様々な意見を聞くことができ、とても充実した時間でした。みんな、一人一人が湯沢市の事を考えていて、みんな意見を出し合えばもっと良い湯沢市になると思いました。

興味や関心を持っていただけるとすれば、どのような方法が効果的か記述ください。

市民の生活にどのように関係しているか具体的な案件をもとに広報したり、発信してもらう。

各議員の方々の PR 活動が若者に伝わりづらいと思ったので、SNS の広報が重要だと感じた。

6. ゆざわ市民一日議会を終えて

1) 湯沢市議会第4回(12月)定例会一般質問

令和6年12月11日、12日及に行われた第4回定例会本会議における一般質問で、ゆざわ市民一日議会で提案された意見などに関連した内容の質問が今年もありました。一般質問の質疑については湯沢市議会ユーチューブチャンネルで動画を公開しております。以下のQRコードをお読み取りいただき、ぜひご視聴ください。

湯沢市議会議員（7番） 寺田 純二

項目	質問事項 / 細目・質問内容	答弁者
2	市民生活を豊かにする総合経済対策について	
①	物品調達など、地元優先で入札、発注するべきだと考えるが市長の見解を伺う。	市長
②	市民生活が豊かになるための、地域循環型経済対策事業を考えているか伺う。	市長
4	主権者教育の重要性について	
①	本市の主権者教育の現状は、どのようになっているか伺う。	教育長



○ 主権者教育の重要性についてであります。議会では、湯沢市民一日議会や、議員としゃべろうマチトーク、議会フォーラムなどを通し、子供たちから御年配の方々に政治や議会、行政に関心を持っていただくための取り組んでいることも、主権者教育につながっていると思います。そこで、本市における小・中学校での主権者教育の現状はどのようになっているのかをお伺いいたします。

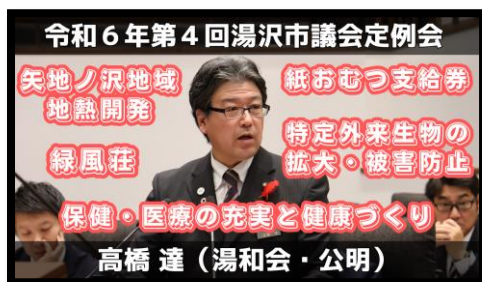
○ 10月27日に湯沢市民一日議会を開催し、10名の方々から様々な御発言を伺いました。その中で、市民生活が豊かになるために必要なものとして、先ほども市長のほうから御答弁がありましたが、働ける場所の確保、仕事での給料で安定した暮らしができること、所得の向上についての御発言を聞きながら、共感いたしました。地域内で経済を循環させることが重要であると思いますが、市長の見解をお伺いしたいと思います。

○ 同じく市民一日議会に参加された高校生の生徒さんから御発言ありましたが、地域通貨、ポイントで町の経済を活性化という、素晴らしい御提案を伺いました。10月20日に行われた湯沢の休日でも実施実験をされたようで、また産業建設常任委員会におきましても、行政視察で地域通貨について視察されてきており

ます。本市でも地域通貨、ポイント制を活用した、地域循環型経済対策事業を取り入れてみてはどうかと思いますが、市長の見解をお伺いいたします。

湯沢市議会議員（12番） 高 橋 達

項目	質 問 事 項 / 細 目・質問内容	答 弁 者
2	緑風荘について	
①	リニューアルオープンする緑風荘の営業スタートに当たり、不安等はないのか伺う。	市長
②	令和6年度の緑風荘管理運営費について、指定管理料は当初の額と変更がないか伺う。	市長
③	指定管理者選定委員会での「選定委員会からの付帯事項」10項目についての確認結果やプレゼンテーション審査等で確認した様々な事項の調整状況の内容について伺う。	市長



○ また、議会が行った今年のゆざわ市民一日議会におきまして、古閑1日議会議員から提言があったことも含め、再質問を行いながら質問をいたします。

○ 次にありますが、今年行ったゆざわ市民一日議会で、この緑風荘への送迎バスの運行を望む声を一日議会議員からありました。このことは、今後、事業展開にも大きく関わることで、そのことが施設利用者の見込み数にも、また大きく影響が出てくるもの

であると、私は感じますが、このようなことについて、協定を結ぶ前にそういうふうな部分ができたといいうなまとめでしたのでしょうか。そういうふうな部分の新しい事業展開についての、そういう申出はなかったのか、この点について確認したいと思います。

○ 一日議会の際には、公務にて佐藤市長には参加していただくことがかなわなかったわけですが、東海林副市長には出席していただいたわけであり。その報告等で、市長も御確認いただいていると思いますが、この点について市長の考えは、どのように考えがあるのかお聞きしたいと思います。

湯沢市議会議員（14番） 石 川 隆 一

項目	質 問 事 項 / 細 目・質問内容	答 弁 者
2	空家等対策事業について	
①	本年3月に策定した第3期湯沢市空家等対策計画の概要と、具体的な取組について伺う。	市長
②	管理不全な空家等や特定空家等の件数と対策について、所有者にはどのような対応をしているのか伺う。	市長
③	解体除却の促進として、特定空家等解体撤去資金助成事業などの制度があるが、活用状況について伺う。	市長
④	本市の空き家件数の現状と山田地区の空き家の状況と対策について伺う。	市長



○ 今、空き家の利活用ということで御答弁いただきましたけれども、今年、湯沢市民一日議会のほうで、発言者からこういった意見がありました。

県外にいる湯沢出身者が、湯沢や秋田を語るときによく話題に出るのが、湯沢は食べ物おいしい。ぜいたくしなければお金はあまりかからない。雪さえなかったら住みやすいとの意見でした。それだったら土地付き空き家を整備し、長期間の貸出しをしてみる体験をしてもいいのではないかと提案でした。

これから、人口減少社会の中で、既にある空き家を有効に活用していくという仕組みができれば、首都圏に在住の方が湯沢に帰ってきた場合に、そうした受皿というものもあればいいのではないかなというふうと思いますが、このような取組についての所見をお伺いします。



～自分の思いを議場で発信～
ゆざわ市民一日議会
開催報告書

〒012-8501 秋田県湯沢市佐竹町 1-1
湯沢市議会 広報広聴委員会